我々はスティックからシャベルに持ち変えて、土方仕事に転じて汗をかくことに……。（写真）

約ひと月半かかってやっとラインが引けるまでになり、久しぶりの練習ができました。ホッ！

（Sさんホントにありがとうございますm(_ _)m）

手話パフォーマンス甲子園をめざす高校生と

そしてもう一つ。これは５年ほど前になりますが八幡高校から「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」にチャレンジしたいとのことで手話指導の依頼がありました。それ以来、毎年ろうあ協会と共に手話指導にボランティアで行っています。去年はフェイスシールド、今年は緊急事態宣言中であり、マスクで指導。先日、ビデオ撮りを終え、あとは７月末の結果発表待ち。ワクワクドキドキの日々。コロナ禍の中ですが、相変わらずの刺激ある交流を楽しんでいます。　（三好）

（初めての参加で予選通過し鳥取に行った生徒が、今年、京都府立聾学校の教員に採用されたとのこと。うれしいニュースでした。）

活動再開を決めたものの 盲ろう者の情報保障に悩み　宇治手話の会「茶だんご」

２年前の例会。手話カルタで楽しみながら学習

私たちのサークルでも、緊急事態宣言の自粛期間中、定例会の中止、再開、中止を何度となく繰り返してきました。

しかし、振り返ってみると緊急事態宣言が解除されたからといって果たして、そのことが定例会や活動の再開とする根拠となりうるのだろうかと考えました。

結果は2度の宣言解除後も状況が変わらないどころか、より感染が拡大し3度目の緊急事態宣言が発出され、さらに期間延長もされるというのが現状です。

本来ならば手話はソーシャルディスタンスを保つには最適なコミュニケーション手段の一つと言えるのでしょうが、私たちのサークルで熱心に手話の指導をして下さる方たちの中には盲ろう者もおられ触手話を使います。接触感染の恐れが極めて高いことから活動再開の決定がなかなか決められない状況です。

今回の緊急事態宣言の期間延長を受けて宣言終了日後に再開するという根拠のない再開日決定をやめ、少なくとも高齢者や障害者のワクチン接種が、おおよそ完了する見込みで8月3日としましたが、暫定的な決定です。

以前のように、ろう者も健聴者も早く交流したいですね。（山村）

活動再開できる方法を模索 ～サークルは こころの健康～　手話サークルあすなろ'82

コロナ禍で以前のように活動ができなくなって1年以上たちました。「緊急事態」は活動休止、「まん延防止」は活動をすると決め、児童館の利用にあたり出席者は、体温、その他の体調不良、海外渡航歴など毎回提出をすることになりました。

また以前は、10時からのサークルのため10時前に準備をして12時までの2時間を活動時間としていましたが、10時に来て準備を始め11時半に終了し、自分たちが利用した椅子や机を消毒、12時に退館と活動時間は短くなりました。

児童館の学童クラブの「手話クラブ」も昨年の2学期から再開することになり、少しずつではありますが活動ができるようになったと思っていたら2度目の「緊急事態」。また、新年度こそとスタートしたのですが3度目の「緊急事態」で休止が繰り返されました。

コロナ禍での活動をどうするのか、サークルメンバーでも意見の分かれるところですが、閉鎖的な生活をせざるを得ない状況でサークルは、顔を合わせ、交流することで〝こころの健康〟につながる集いの場です。だからこそ、どうやって活動できるのかを話し合い、今年度は、社会見学や講演会をどうやったらできるか模索中です。　（殿西）

地域婦人会の手話教室に協力 貴重な活動の機会　丹後町手話サークル（丹後六町手話サークル連絡会）

6月27日（日）、丹後町間人（たいざ）婦人学級の開校式がありました。地域婦人会が学べる教室という事業に取り組んでいて、メニューは読書、園芸、健康、着物着付け、短歌、手話。参加者は約30人で、好きな教室を選びます。その中の手話の指導を丹後町手話サークルが担当。会員少ないゆえ、総力挙げてとなります。

コロナ感染拡大により、開催がたびたび延期となり中止も覚悟していましたが、昨年度に続き実施されることとなりました。

開校式は、婦人会の方が進行を担当され、あいさつ、学級長からの説明や講演。実